

クラス401:セッション2

「ライフ・メッセージを分かち合う」

I ペテロ 2:9

2018.2.4 HKJCF

1

クラス401の概要

クラス401は神様からいただいた人生の目標・使命を発見し、自分の人生に対する神のご計画を全うすることです。

各セッションのテーマ

1. 私の人生の使命を発見する
2. ライフ・メッセージを分かち合う
3. 私の「宣教池」で魚を釣る
4. 世界宣教の働きに参加する

2

概観

神様は私たちの人生を通して、世界に伝えたい、私たちしか語れないユニークなメッセージ(証)があります。どのようにイエス様との関係が始まり、そしてイエス様を受け入れる方法を分かち合うことです。

アウトライン

1. 自分の証を分かち合う
2. 福音を分かち合う
3. 効果的に分かち合う

3

1. 自分の証を分かち合う

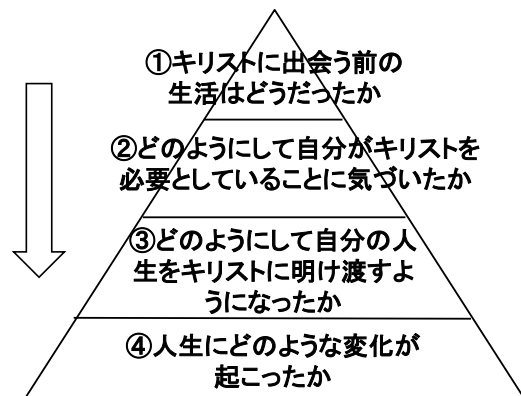
- 1) 聖書に見る個人的な証の例: ダビデ(詩篇 66:16); サマリヤの女(ヨハネ 4:39); 生まれつきの盲人(ヨハネ 9:25)。
- 2) 神に命じられている: 専門家に任せておけばいいことではない(詩篇 96:2-3; 105:1)。
- 3) 自分の証はユニークである: 自分のライフ・メッセージは自分しか語れない。
- 4) 自分の証は個人的で、分かりやすい: 原則や教理より、人々に届きやすい特徴がある。

4

1. 自分の証を分かち合う

- 5) 自分の証についての権威者である: だれにも反論、否定のしようがない。
- 6) 自分の証は他人の記憶によく残る: 物語は人々の記憶に残りやすい利点がある。
- 7) 人々は自分の人生に結び付けやすい: 証は人間関係の橋渡しの役割を果たす。
- 8) 最も効果的な伝道方法: 聖書の権威を受け入れず、聖書の教えが真理として認められない時代は、個人的な証にだけ耳を傾ける。「有給の専門家」⇔「満足している顧客」。

5



6

証を準備する際の留意点

- ・紙に書き出し、長くなりすぎないように焦点を絞る; 3分～5分くらいにまとめる。
- ・多くの人々に共通する経験について語る。
- ・現在進行形の葛藤についても正直であること。
- ・クリスチャンになったときに、すべての問題が解決したかのような話し方をしない。
- ・なぜキリストを受け入れたのか。
- ・ほかの宗教、教派について悪く言わない。
- ・話を劇的なものにせず、脚色しないこと。
- ・みことばを引用しすぎないように。

7

証に使えるテーマ

| キリストを信じることによって克服できた問題 | キリストを信じることによって与えられたもの |
|-----------------------|-----------------------|
| 心配事、思い煩い | 内なる平安 |
| 罪責感、恥 | 赦しと新しい出発 |
| 怒り、短気、悲しみ | 忍耐、愛、喜び |
| 空しさ、目的の欠如 | 人生の目標と意味 |
| ストレス、燃え尽き | 新しい活力、生きる力 |
| 依存性、悪習慣 | 変わる力、自由 |
| 死への恐れ | 天国への確信 |
| 結婚生活、経済、仕事上の問題 | 結婚生活、経済、仕事における肯定的な変化 |

8

クリスチャン用語を普通の言葉に置き換える

| クリスチャン用語 | 未信者に話す時 |
|-----------|---------------|
| 私は祝福されている | 私は幸せである |
| 生まれ変わった | 新しいスタートを切った |
| 私は救われた | 私の人生は変えられた |
| イエス様は私の主 | イエス様は私の導き手 |
| 悔い改めた | 考え方が180度変えられた |
| 罪を犯していた | 荒れた生活を送っていた |
| すべての人は罪人 | 完全な人は一人もない |
| 示された | 気づいた |

9

2. 福音を分かち合う

- 1) イエス様は人となられ、私は神と関係を持つことができる: イエス様のおかげ(ローマ 1:2-4)。
- 2) イエス様の死で、私は自分の罪のさばきを負わなくていい: 帳消し(Ⅰコリント 15:2-4)。
- 3) イエス様が死を滅ぼされたので、永遠の命を持つことができる: 新しい人生(Ⅱテモテ 1:10)。
- 4) 救いは恵みなので、私は自力で獲得する必要がない: 無償の贈り物(ローマ 3:24-25)。
- 5) 救いは信仰によるもので、悔い改めて信じるだけ: 福音はすばらしい力がある(ローマ 1:17)。

10

3. 効果的に分かち合う

- 1) 自分のスタイルを認識する: 仕える、知性に訴える、教会に誘う、体験談を話す、トラクト。
- 2) 適切な言葉を選び、愛を示す: 相手のことを気にかけている(Ⅰコリント 13:1)。
- 3) 肯定的に、気持ちよく話す: 励ましを与え、理解を促す話し方(箴言 12:25; 16:21)。
- 4) 相手をけなすような言い方をしない: 信者のように振る舞うことを期待しない(コロサイ 4:6)。
- 5) 物語を語り、実例を示す: 具体的な物語の方が自分と関連づけて聞ける(マタイ 13:34)。

11

3. 効果的に分かち合う

- 6) 自然で霊的に話そうと無理しない: 相手を言い負かさず、脚色しないように(Ⅰコリント 2:1)。
- 7) 心を開いて正直になる: 福音だけでなく、自分をオープンにするように(Ⅰテサロニケ 2:8)。
- 8) いくつかのカギとなる聖句を暗記する: 聖書や携帯がなくても困らないため(Ⅱテモテ 2:15)。
- 9) 純粋な心で簡潔に話す: 真実を語れば、誠実さと信憑性が伝わる。
- 10) 聖霊様が私たちの言葉を用いられる: 自分の力で説得しない(Ⅰテサロニケ 1:5)。

12